



若竹の塔

豊田市立竹村小学校 学校だより 2月号 令和4年 2月17日(木) 発行人：近藤僚吾

新型コロナウイルスへの感染が急拡大した第6波の中、本校においては、3年生と5年生で学年閉鎖を実施し、保護者の皆様には大変ご心配をおかけしました。今のところ、校内で感染が広まる状況ではありませんが、油断することなく、基本的な感染予防を進めていきます。さて、2月も中旬を迎え、今年度の教育活動を振り返り、来年度に向けて準備をする時期となりました。本校では、学校経営方針にめざす児童の姿を以下のように掲げ、日々の教育活動を実践してきました。

- ＜めざす児童の姿＞
- ① 課題について筋道を立てて考え、確かめる子
 - ② 命を大切にし、自ら学び、仲間と共に生活する子

今月号では、めざす児童の姿に向けて取り組んできた要点と、これから力をいれていきたいことについて、お伝えすることにします。来年度への方向性として捉えていただきたいと思います。

① 校内研修で一人一実践の授業公開 ～よりよい授業をめざして～

課題について筋道を立てて考え、確かめる子を育てるためには、日々の授業をよりよくしていく必要があります。本校では、校内研修として一人一実践の授業公開を行っています。授業者が作成した授業プランをもとに授業を参観し合い、授業後にはアドバイスを伝えて学び合うものです。今年度は、「竹村の学び～授業づくり10か条～」のうち、課題づくりと振り返りを重点に置いて取り組みました。



【5年生 理科の授業より】

授業の中で課題がつくられると、子どもたちは予想を立てます。「たぶん○○だと思う」「きっと□□ではないかな」と発言し、課題を確かめるための学習計画を考えていきます。また、振り返りでは、担任がポイントを示すことで、「○○さんの考えを聞いて、□□が大切だとわかりました」と他者の考えを取り入れて学習を振り返る子どもたちの姿が見られるようになってきました。日々の授業での取組が成果として表れてきています。来年度も継続していきたいと考えています。

② 命の尊さに重点を置いた授業 ～かけがえのない命・つながる命～

命を大切にし、自ら学び、仲間と共に生活する子を育てるために、生命の尊さに重点を置いた道徳の授業を行っています。校長も各教室に出向き、子どもたちと共に授業に取り組んでいます。この取組は、今年度で2年目となります。昨年度は教科書を教材にしましたが、今年度は、6年生で金子みすゞの詩、5年生では、まどみちおの詩を教材とすることにチャレンジしました。全員で詩を黙読し、一番心に残った部分に印をつけ、その理由を書き、学級のみinnで伝え合いました。



【まどみちおの詩から】

5年生の授業では、次のような子どもたちの考えが出てきました。

- ・大事に育てられてきたすべての命を大切にしなければならないと思う。
- ・たった一つの命だから、生きていることがすばらしいことで、何より大切だ。
- ・親に守られてここにいる。自分たちが大人になったら子どもたちの命を守り続けたい。

子どもたちが仲間の考えを聞きながら深く考え、かけがえのない命・つながる命に目を向けていることに感心しました。また、真剣に考える子どもたちのまなざしが輝いていました。こうしたことの積み重ねが子どもたちの心を耕していくものと信じ、道徳の授業の充実に努めていきます。